

明治十一年度本局管理官有財産價格表

本場		諸器具		出張所		見張所		石炭庫		米庫		官舎		牛舎		諸工場		火薬庫		建物附屬地		橋梁		輸車路		道		船		小樽炭庫		函館		室蘭		浮	
本局	二〇〇,〇〇〇	諸器具	二〇〇,〇〇〇	出張所	一、五九二、七八〇	見張所	六六〇,〇〇〇	石炭庫	二九九、二七九	米庫	二、七三〇,〇〇〇	官舎	四、五〇〇,〇〇〇	牛舎	三、三〇〇,〇〇〇	諸工場	二、九六七、七三	火薬庫	一〇,〇〇〇	建物附屬地	六六九	橋梁	一、五五五	輸車路	三三九、七〇〇	道	四、四八八、一二	船	二、五〇〇,〇〇〇	小樽炭庫	二、五〇〇,〇〇〇	函館	三、五〇〇,〇〇〇	室蘭	三、五〇〇,〇〇〇	浮	三、五〇〇,〇〇〇
量	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	
額	五〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	

開切使

推具其他		麦酒醸造場		内製油		内製糖		内製炭		内製紙		内製粉		製粉		穀物蔵		倉庫		手宮穴倉	
推具其他	四九六、〇〇〇	麦酒醸造場	六四八、六〇三	内製油	一六八、三、四八九	内製糖	一、一四一、二二	内製炭	二、一四一、二二	内製紙	一、一四一、二二	内製粉	一、一四一、二二	製粉	一、一四一、二二	穀物蔵	一、一四一、二二	倉庫	一、一四一、二二	手宮穴倉	一、一四一、二二
量	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
額	五〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

幌内煤田開採着手報告第一回

起源ヨリ十一年十二月ニ至ル

幌内煤田ハ札幌本廳ノ北東凡松八里許ニ在リ廣袤凡里餘ニシテ群山起伏樹木叢生ス其煤炭ノ開採ニ堪ヘキモノ凡七層ニシテ薄キモノハ三尺三寸厚キハ五尺八寸ニ至ル米國地質學士「ライマン」ノ畧測ニ據ルニ此

開切使

煤田測量區域ハ凡ニ七英方里ニシテ海面下四千尺マ
テヲ算入スレハ煤炭ノ量ハ無慮十億。三松亭万五
千噸ノ多キニ至ルベシト然レモ是僅ニ幌内一煤田ニ
止ルノ量ノニ其他南ニイチキシリ北ニスツバオマナ
イビバイサンケヒバイナイエソラチ等ノ諸炭山アリ
皆本煤田ニ接近セリ若シ運輸至便ノ法ヲ得ハ皆漸次
開採ヲ期スヘキナリ。今般將サニ始テ開採セントス
ルハ幌内第六露出煤層ニシテ其炭坑ノ位置ハ早川村
ノ南東ニアリ早川村ハ幌内川ノ上流溪水ニ派相合ス
ル所ニアリテ溪水一ヲ本澤ト云ヒ一ヲ瀧ノ澤ト云フ
抑モ本山ハ人跡未夕通セス樵夫獵者モ曾テ至ル者ナ
カリシニ明治五年六月札幌人早川長十郎初テ煤炭ヲ
ルヲ發見シ之ヲ官ニ報告セリ是ヨリ先キ煤炭ヲ此地
ニ發見セシ石狩人紺野

開採便

松五郎等アリト雖モ之ヲ官ニ是村名ノ由テ起リシ所以
ニ報セシハ早川長十郎トス是村名ノ由テ起リシ所以
ナリ此地ハ四面皆山山頂ノ高キ者海面上地勢曠濶ニ
シテ且水害ヲ被ラサルヲ以テ官舎或ハ職工ノ廠舎ヲ
建設スルニ適セリ幌内川ハ此ヨリ山間ヲ迂回屈曲シ
テ流ルル凡七里許幌内太ハ太ハ土言川ニ至リイリ
シムバツ川ニ合スイリシムバツ川ハ幌内川ト合シテ
幌内太ニ至リ石狩川ニ入ル其地勢概テ如此故ニ掘採
スル所ノ煤炭ハ坑口直ニ斜道或ハ車路ヲ設ケ以テ之
ヲ鉄道停車場ニ輸シ鉄道ヲ經ルル凡七里幌内太ニ輸
シ此ニ至テ二十五噸以上ノ荷船ニ積載蒸氣曳船ヲ以
テ之ヲ石狩河口ニ輸シ或ハ天氣牢晴波濤恬静ナレハ
直ニ之ヲ小樽港ニ輸送シ以テ内外各港ニ輸出スルヲ
得ヘシ石狩川ハ米人エムエスデーノ測量ニ據ルニ幌

開採便

向太ヨリ河口ニ至迄拾四里ノ間其深處四拾尺ニシテ
淺處拾貳尺ニ下ラズ故ニ少シク流木ノ水底ニ沈滯ス
ルモノヲ除疏スレハ相應ノ漚帆船ヲ通ズルニ便ナリ
河口ノ濇路ハ雪解或ハ河水暴漲ノ時ハ開通シテ拾貳
尺ノ深サニ至レリ然レ秋冬ノ間西北風甚レキ時ハ上
砂壅塞スルノ患アレハ土砂浚疏器械ヲ裝置シテ濇路
ヲ改良シ漸次功成ルニ及ンテ喫水淺キ漚帆船ヲ以テ河
中ヲ上下シ幌向太ヨリ直ニ小樽其他各所ニ輸出スル
等ノ便亦之ヲ計ラントス○本坑開採固ヨリ容易ノ事
業ニ非ス且ツ北海道ハ風雨冰雪ノ為ノニ一歳ノ内十
二月ヨリ四月マテハ實地ノ業ヲ施スニ困難ナレレ今
日ヨリ凡四年間即チ明治十五年ニ至リテ其工ヲ竣ル
ヲ期シ竣工ノ後ハ此多量ノ煤炭ヲシテ特リ内國ノ三十

ヲズ廣ク東洋諸港ノ需用ニ應シ外國人ノ所謂北海道
ノ煤田ハ日本ノ金庫ナリト云語ハ實ニ溢美ニ非ル
ヲ證スルヲ期ス○本邦ハ鉄道架設水利鑛山等ノ事業
ニ熟練ノ人乏クシテ設ヒ僅々有之モ各地ノ工業ニ從
事スルヲ以テ遠ニ之ヲ採用スヘカラス因テ土木師鑛
山師ヲ米國ヨリ水利工師ヲ和蘭ヨリ招キダリ○十一
年十月開拓大書記官山内堤雲御用係松本莊一郎等ヲ
北海道ニ派遣シ岩内幌内両炭山及ヒ石狩川等ヲ巡視
シ將來著手ノ順序ヲ計畫セシム尋テ煤田開採事務係
ヲ札幌本廳ニ置キ山内堤雲ヲ事務長トシ松本莊一郎
ヲ副長トス○亘寒積雪ニ至レハ野業作スヘカラス此
時ニ當テ曩ニ測量セシ所ニ據テ工業ニ緊要ノ圖ヲ製
シ又將來施スヘキ計畫ヲナスニアリ故ニ先ツ幌向太

ニ外國工師及補助手等ノ富スヘキ堅牢防寒ノ一官舎ヲ建築スルヲ期ス。○公道ノ樹木ヲ伐リテ鉄路ノ土臺其他ニ用フヘシ来歳ハ所々ノ舎屋等ニ用フルモノ亦多数ヲ要スルヲ以テ先ツ幌内近傍ノチキシリ及幌向太等ノ所ニ於テ椴松及雜木ヲ伐採セントス。○鉄道近傍河水ノ増減ヲ量ルハ緊要ナルヲ以テ幌向太ニ於テ堅牢ノ測水標ヲ建ルニ着手セリ。○前條ハ天氣定リタク實測ノ難易計ル可カラサルヲ以テ工師ノ至ヲ俟チ實測セント欲シ器械等畧準備セリ

同上第二回報告

十二年一月ヨリ六月ニ至ル

開採準備ノ景況ハ既ニ前報ニ報セシ所ノ如クナルニ外國ヨリ聘スル鑛山土木水利ノ三工師來航ノ期遷延シテ容歳十二月中旬ニ至リ土木師米人セシ、クローフ

オールド始テ到着セリ然レ時己ニ冨寒積雪ノ為ニ野業ヲ施スヘカラサルヲ以テ姑ク同氏ヲシテ函館水道ノ測量錢函小樽間ノ道路検査等ニ從事セシメタリ本年二月下旬鑛山水利ノ二工師亦到着セリ是ニ於テ實測ノ準備ヲ為シ冰雪ノ消スルヲ俟ツ然ルニ本年ハ雨雪ニ雪殊ニ多ク就中二月二十三日ハ近古未曾有ノ雨雪ニシテ道路殆ント梗塞ニ至レリ但木材ヲ運搬スルハ却テ便ヲ得ルヲ以テ目下需用ノ木材ヲ伐採セシメタリ○其後日ヲ經テ冰雪凝凍シ踏テ行クヘキノ報アリ是ニ於テ三月中旬副長松本莊一郎土木師クローオフルト等雪ヲ冒シテ札幌ヲ發シ對雁江別ノ兩村ヲ經幌向太ヨリ漸次鉄道ヲ開設スヘキ線路ヲ検査シ幌内炭山ニ抵ル時ニ雪深キ一猶三四尺ニシテ唯山間一條ノ溪

水ヲ見ルノニ是日鑛山師ゴージヨウハ愧内ノ炭層雪
深クシテ試檢スベカラサルヲ以テ岩内煤田點檢トシ
テ札愧ヲ發セリ○四月下旬ニ至リ積雪漸ク消シ始テ
實測ニ著手スヘキノ時ニ當テ石狩愧向等ノ河水暴カ
ニ漲リ愧向河口平水ヨリ高キ一貳松七尺ニ及ヒ數十
年來未タ曾テ見サル所ト云フ曩ニ伐採セシ木材及ヒ
愧向太建築用材等殆ント其半ヲ流失セリ是レ其本業
ヲ妨ケ退歩セシムルモノ、如シト雖氏著手ノ始メニ
當リ此ノ如ク非常ノ大雪及ヒ暴漲ニ會スルハ却テ將
來ノ工事上ニ於テ深ク謀リ遠ク慮リ豫メ其準備ヲナ
サシムルノ媒ナルヘシ○愧内炭山ハ其近傍絶テ人煙
ヲ見ガルノ地ニシテ石狩河ヲ距ル八里餘該河ヨリ岩
見澤炭山ヨリ西四里半ニシテマテ僅カニ刳舟ヲ通ス

開採俵

ルヲ得ルノミナレハ此開採ノ業ヲ起スニ方リテハ速
カニ運搬ノ便ヲ開カサルヘカラズ然ニ本年ハ大雪暴
漲等ノ為ノニ妨ケラレ其期ヲ過キ五月中旬ヨリ六月
三十日迄ノ間ニ於テ愧内炭山ヨリ愧向太ニ至ル線路
ノ實測ヲ卒ヘ地圖成リ山谷ヲ鑿填シテ道路ヲ開設ス
ル六百間又樹木ヲ伐採シ雜草ヲ芟スル三里餘其他有
用ノ木材ヲ伐リ出張官負技手及ヒ職工等ノ舎屋ヲ數
ヶ所ニ設ケ稍著手セシ所アリト虽正是レ皆將來興業
ノ楷梯ニシテ目下未ダ特ニ報告スヘキモノナシ但シ
愧向太ヨリイナキシリニ至ル線路實測成ルヲ以テ益
著手ノ順序ヲ整理シ道路開設ノ事ヲ卒ヘバ本年降雪
ノ期ニ先タ千車馬舟楫相屬シ運搬ノ便ヲ得ハキハ夙
ニ確信スル所ナリ

開採俵